

未来を拓く 研究室訪問



三重大学 大学院工学研究科
地域圏防災・減災研究センター
社会連携部門長
准教授 川口 淳 先生

◆最近の防災・減災活動

中小企業庁事業継続力強化支援事業：選定審査委員
中部経済産業局の事業継続力強化計画：審査委員
三重県内病院のBCP策定ワークショップ：講師 等

当社では、事業レベルの高度化や新サービスの開発において多くの大学の先生に助言を頂いたり、共同研究をさせて頂いています。そんなお世話になっている先生の研究室を訪問し、1時間以上のインタビューの中から大胆に抜粋して未来技術の今をお伝えします。

防災を専門に取り組み始めた経緯について

デザインを学びたいと大学では建築を専攻していたが、縁があり？大学に助手として残ることに。そんななか、阪神・淡路大震災が発生し、京都大学の防災研のメンバーとして建物被害を調査すべく、中央区の建物を1軒ずつ歩いて調べた。調査の結果、建築基準はOKと結論付けたが、当時の写真には報道にあるような被災の人々を伝える記録はなく、当然の事ながら建物の写真ばかり。大学でもハードからソフトへの地域防災を研究するべきと思い立ち、取り組むようになった。

先生の最近の研究等について

MAS (multi agent simulation) を活用した災害時避難行動要支援者の支援方法検討に関する研究・簡易耐震診断手法の開発と利用方法に関する研究など様々な研究をされながら、三重県の「防災主治医になりたい」と地域や企業に向けて防災、減災に数多くアドバイスをされている。現在は南海トラフ地震が今後発生することに備え、三重県内の病院におけるBCP（事業継続計画）策定の指導をされ、災害が起こった場合を想定しての病院運営の維持に注力されている。

先生から伝えたいこと

南海トラフ地震を念頭においた場合、想定を超えてくる危機意識が求められ、「最悪」をイメージしておかないと、守れるべきものが守れなくなる。「最悪」ななかでも会社を生き返らせるために守り通すべきものは何なのか？そのコアとなる部分に人材や資金を投入させる災害時プランが必要。災害は起こらない方が良く、空振りとなることもあるかもしれないが、命を守るために今できることを進めてほしい。

インタビューの感想

中日新聞や三重テレビなどメディアでも取り上げられ、積極的に講演活動もされており、非常にわかり易い表現で教えていただきました。南海トラフ地震の想定死者数は32万人。この数字から過酷な惨状が浮かび、防災、減災を考える方も多いのではないのでしょうか。この記事を見た、一人でも多くのかたが、ライフラインが絶たれたときの自分、家族、会社を守ることにについて考えていただければ、先生の想いを皆様に繋げられる意味のあるインタビューになると思います。

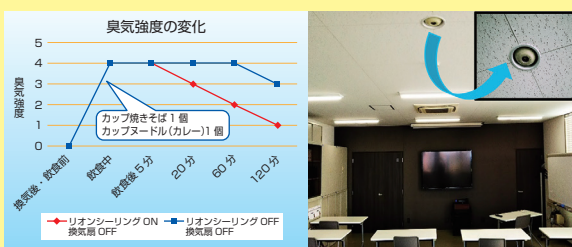


測ってみよう！探検隊 Vol.77

コロナ対策 設置した「オゾン除菌脱臭機」の効果は？

当社四日市分析センターの研修室は会議以外に、食事をする場としても使用しています。今回コロナ対策としてオゾンによる除菌脱臭機を設置し、24時間稼働させています。昼食後の臭いがかなり減ったという反響もあり、測ってみました。

脱臭効果確認に加えて、並行測定した落下細菌数、落下真菌数とも厚生労働省通知の衛生規範による基準値以内であり、オゾンによる除菌脱臭効果が確認できました。感染状況は落ち着いてきていますが、これから寒さが増す時期、常時換気とこのアイテムで窓ドア開放による換気は必要ないかもしれません。

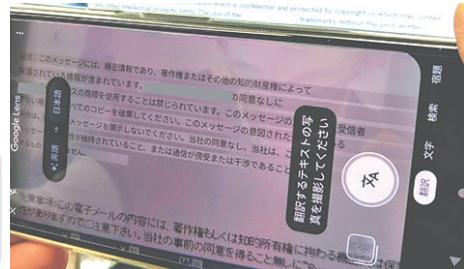


【商品詳細はこちらへ】

ココに技あり！ 番外編

Googleレンズの活用で翻訳ソフトは不要！

日頃、英語が思わぬところで出てきてアタフタ…経験ありませんでしょうか？先日、社員がスマホをパソコンにカざしているのを上司が見てびっくり。翻訳にスマホアプリ「Googleレンズ」を使うことで、コピー＆ペーストで文章を移行させることもせず、長文も瞬時に概略が把握可能。輸入品の取扱説明書などにも幅広く使えるため、ありがたい機能です。使用されたことがない方はぜひ無料です。お試しください。



社員プチコラム

林 慎悟 (コーポレート本部 ICTグループ)

趣味があまりない私は、コロナ禍で何か趣味を見つけたいと思い、今年の秋から園芸のいちご栽培を始めました。我が家には、庭にブルーベリーとジュンベリーの木があり、少し肥料を撒く程度で、基本的にはほぼ放置で毎年実がなり、ジャムにして食べています。今回のいちごは定期的に管理を行い、愛情を込めて育てたいと思っています。園芸初心者ですが、初めからうまくいくとは思いませんが、何とか春には実を結び、そのまま食べるのは勿論ですが、ジャムのレパートリーを増やして楽しみたいです。



編集後記

11月5日は「世界津波の日」だったようです。東日本大震災のあの惨状は忘れようありません。三重県は海に面しているため、東南海大地震が起これば確実に津波に襲われます。川口先生へのインタビューは改めて考える機会となりました。明日は我が身ということを忘れずに防災、減災を進めなければなりませんね。(みっちー)

